

令和2年度
沖縄県
生涯学習に関する県民意識調査

令和3年3月
沖縄県教育委員会

目 次

第1章 調査の概要

1-1	調査の目的と実施概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査概要	1
3.	回収結果	2
4.	集計・選択肢の表現について	2
1-2	回答者の属性	3
1-3	調査結果の概要	6
1.	学習活動の実態	6
2.	学習活動を支える条件	7
3.	生涯学習の今後の方向	7
4.	リカレント教育について	8
5.	おきなわ県民カレッジ	8

第2章 調査結果の分析

2-1	学習活動の実態	9
1.	学習分野の実態	9
2.	学習場所ならびに学習形態	14
3.	生涯学習活動をして役に立ったこと	17
4.	学習や活動が出来ない理由	23
2-2	生涯学習の今後の方向	26
1.	今後の生涯学習について	26

2-3	学習活動を支える条件	35
1.	情報提供方法	35
2.	学習活動に要する自由時間	38
2-4	リカレント教育について	43
1.	リカレント教育を受けたいかの有無	43
2.	リカレント教育を受けたい理由	46
2-5	おきなわ県民カレッジ	49
1.	おきなわ県民カレッジを知っていますか	49
2-6	クロス集計結果	51
1.	生涯学習や活動を始める動機について	51
2.	希望する生涯学習内容について	55
3.	生涯学習の環境整備について	58
	巻末資料：調査表	59

第1章 調査の概要

1-1 調査の目的と実施概要

1. 調査の目的

社会の構造的変化の中で、人々の価値観も多様化、高度化しており、県民の意識やニーズの変化及び行政に対する要望を把握するにあたり、生涯学習に関する県民意識調査を計画的、定期的を実施する必要がある。

今回の調査は、前回調査から5年経過しており、その間の県民意識や行動の変化を調査し、その結果を市町村や県の生涯学習施策に反映させ、より一層の生涯学習社会の推進と充実を図るために実施するものである。

2. 調査概要

(1) 調査対象者と標本数及び回収数

- ア 調査の対象：20歳以上の県民
- イ 標本数：2,000件
- ウ 抽出方法：層化2段階無作為抽出
母集団～県内在住の20歳以上の住民

第1次抽出	中都市（人口10万人～50万人未満）	那覇市
	小都市（人口10万人未満）	名護市、宮古島市
	町村	南風原町、中城村
第2次抽出	各自治体の人口に比例した標本数を等間隔で抽出	

(2) 調査実施方法と期間

- ア 調査の実施方法：郵送方式ならびにインターネット回答
- イ 実施期間：令和2年12月～令和3年1月

(3) 調査内容

- ア 対象者の属性（問1～問4）
性別、年齢、居住地、住居年数、職業
- イ 学習の実態（問5～問10）
1年間に継続した学習、学習場所と学習形態、学習の効果、効果の具体例、学習や活動ができない理由
- ウ 生涯学習の今後の方向（問11～問13）
今後の学習活動の有無、今後参加したい学習活動、今後の学習場所と学習形態

- エ 学習活動を支える条件（問 14～問 15）
 - 今後の学習情報の入手方法
 - 自由時間
- オ リカレント教育について（問 16～問 17）
 - リカレント教育を受けたいのかの有無
- カ おきなわ県民カレッジについて（問 18）
 - 講座について

3. 回収結果

回収結果は以下のとおりとなる。回収数は 634 件で、本調査は 634 件の票による集計・分析を行う。回収率は、31.7%である。

	配布数	回収数	回収率
那覇市	1,304	406	31.1%
名護市	246	86	35.0%
宮古島市	221	55	24.9%
南風原町	148	55	37.2%
中城村	83	26	31.3%
不明	—	6	—
合計	2,002	634	31.7%

4. 集計・選択肢の表現について

回答率（各回答の百分比率）は少数第 2 位を四捨五入した。単数回答（SA）の百分率の合計は 100.0%であるが、四捨五入のため百分率比が 0.05%未満は 0 と示されているため、見かけ上、100.0%にならないことがある。

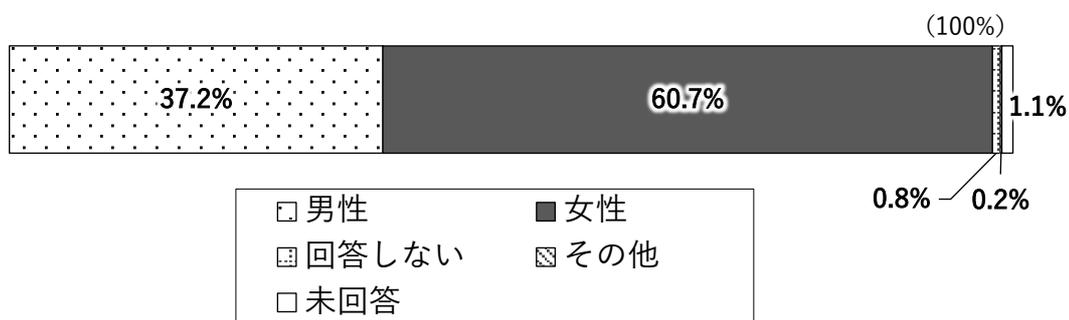
複数回答（MA）は回答者数を基数として算出しており、合計が 100.0%を上回ることがある。

分析の中で回答選択肢の表現の趣旨を損なわない範囲で語句を省略し、表現を簡略した場合がある。

1-2 回答者の属性

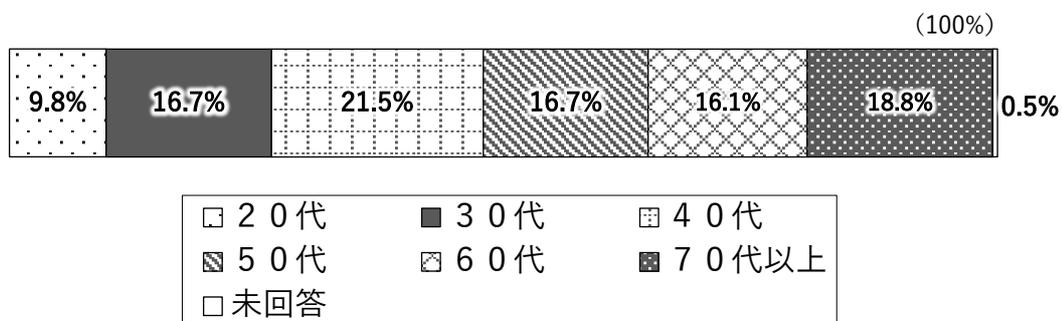
(1) 性別 (問1)

	標本数	性別				未回答
		男性	女性	回答しない	その他	
回答数	634	236	385	5	1	7
全体	100.0%	37.2%	60.7%	0.8%	0.2%	1.1%



(2) 年齢 (問2)

	標本数	年齢						未回答
		20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
回答数	634	62	106	136	106	102	119	3
全体	100.0%	9.8%	16.7%	21.5%	16.7%	16.1%	18.8%	0.5%



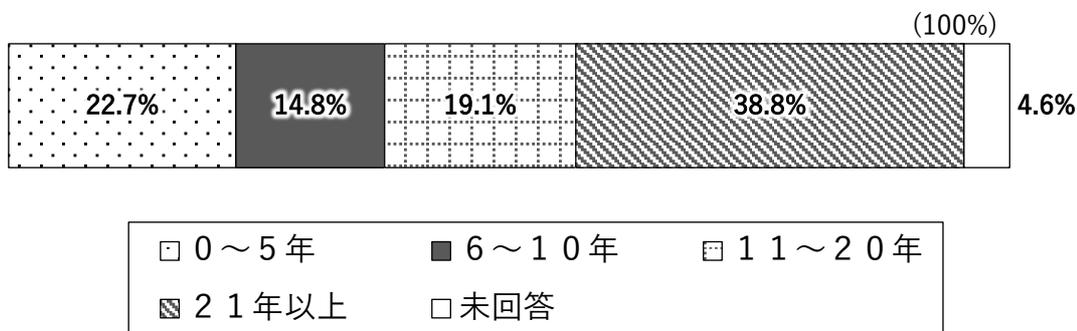
(3) 居住地 (問3)

	標本数	居住地					未回答
		那覇市	名護市	宮古島市	南風原町	中城村	
回答数	634	406	86	55	55	26	6
全体	100.0%	64.0%	13.6%	8.7%	8.7%	4.1%	0.9%



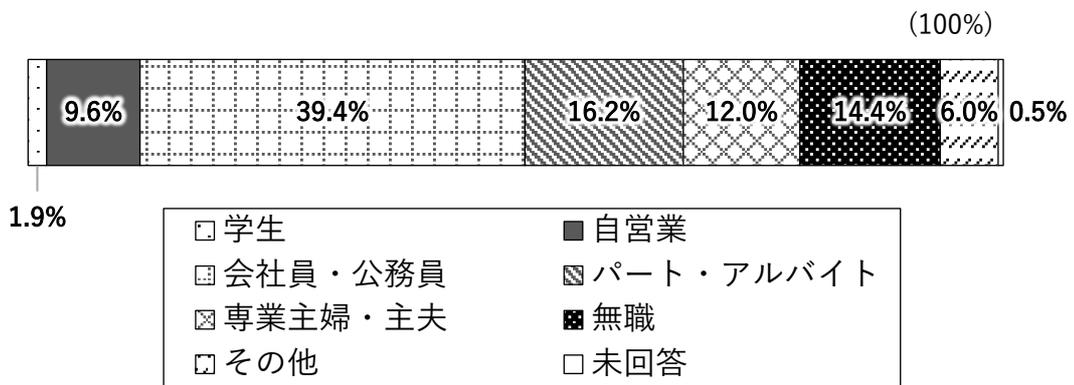
(4) 居住年数 (問3)

	標本数	居住年数				未回答
		0~5年	6~10年	11~20年	21年以上	
回答数	634	144	94	121	246	29
全体	100.0%	22.7%	14.8%	19.1%	38.8%	4.6%



(5) 職業 (問4)

	標本数	職業							未回答
		学生	自営業	会社員 公務員	パート アルバイト	専業主婦 主夫	無職	その他	
回答数	634	12	61	250	103	76	91	38	3
全体	100.0%	1.9%	9.6%	39.4%	16.2%	12.0%	14.4%	6.0%	0.5%



1-3 調査結果の概要

1. 学習活動の実態

(1) 学習分野の実態 (問6)

1年間継続して学習活動を行なった分野としては、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」(17.4%)の割合が最も高く、次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」(15.3%)、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」(12.5%)となっている。

(2) 利用施設ならびに学習形態 (問7)

過去1年間、学習活動のために利用した施設ならびに学習形態として、「自宅での学習（書籍など）」(17.9%)、「インターネット、オンライン講座、情報端末」(16.8%)、「同好会、サークル、自主的に行なっている集まり等での活動」(12.3%)が上位に入っている。

本年度の調査結果は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあることから、特に施設を利用した学習活用よりも「自宅での学習（書籍など）」や「インターネット、オンライン講座、情報端末」が上位2項目になっていることから、公共の施設を利用しない活動が増えていることがうかがえる。

(3) 生涯学習で役立ったこと、また生涯学習や活動をしたり、参加したりしてよかった理由、またよかったと思えなかったことの有無 (問8)

ア 生涯学習をしてよかった理由、よかったと思えなかった有無

生涯学習をしてよかった理由に関する設問に対して、「必要な知識・技術が高められた」と答えた人が、(31.6%)で最も高く、次いで「生活をよくするために役立った」(16.4%)、「新しい友達を得て人間関係が広がった」(13.3%)、「働くほかに生きがいをもてた」(13.1%)となっている。

また、生涯学習に参加してよかったと思えなかったことの有無に関する回答がゼロのため、学習活動の効果を感じている人はほぼ全体を占める割合となっている。

イ 役立った内容 (問9)

「日常生活の向上（家庭生活の改善・健康管理等の向上）」(29.5%)、「職業生活への活用（転職・資格取得・仕事の合理化等）」(22.2%)の2項目が上位を占め、次いで「同好会やサークル・グループづくりまたは参加」(14.6%)、「学習成果の発表（発表会・展示会・発表誌等の発行）」(9.0%)が続いている。

2. 学習活動を支える条件

(1) 学習活動に要する時間（平日）（問 15）

県民が平日に使える自由時間は、「平日の場合 1 時間～2 時間未満」(38.5%) で最も高く、次いで、「平日の場合 2 時間～4 時間未満」(27.2%)、「平日の場合 1 時間未満」(19.3%) となっている。

(2) 学習活動に要する時間（休日）（問 15）

県民が休日に使える自由時間は、「休日の場合 2 時間～4 時間未満」(28.9%) で最も高く、次いで「休日の場合 1 時間～2 時間未満」(23.7%)、「休日の場合 6 時間以上」(19.4%) となっている。

(3) 学習や活動ができない理由（問 10）

学習や活動に参加できない理由として、「仕事・家事・育児などのため、時間が取れない」(26.7%) が最も多く、以下「どんな学習や活動があるのかわからない」(18.4%)、「学習費用を負担できない」(13.6%)、「学習や活動をする必要を感じない」(9.3%)、となっている。

3. 生涯学習の今後の方向

(1) 今後の学習活動について（問 11）

本年度調査で、今後の生涯学習への参加について、質問したところ、「学習をしたい」(42.4%)、同じく「どちらかといえば学習したい」(42.4%) と、約 8 割の回答者が、今後の生涯学習への参加意欲を示している。

また、「どちらかといえば学習したくない」(10.0%)、次いで「学習したくない」(5.2%) と全体の 2 割弱の回答者が今後の生涯学習への参加に対し、消極的であることが示されている。

(2) 今後参加したい学習活動（問 12）

将来における生涯学習の活動内について、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」(15.4%) と最も高く、以下「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」(13.2%)、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」(12.9%)、「インターネットやプログラミング、パソコン・スマートフォン操作に関すること」(11.8%) と続いている。

(3) 今後の学習場所ならびに学習形態（問 13）

今後の学習方法として、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座等」(19.6%) と最も高く、次いで「インターネット、オンライ

ン講座、情報端末」(16.4%)、「自宅での学習(書籍など)」(14.0%)、「カルチャーセンターやスポーツクラブ」(11.2%)、「図書館、博物館、美術館」(9.8%)と続いている。

(4) 今後の学習情報の入手方法(問14)

今後の学習や活動に関する情報の提供方法について「インターネット、SNSで」と答えた人が(19.9%)で最も多く、次いで「市町村の広報で」(17.4%)、「新聞や雑誌で」(15.0%)、「テレビ、ラジオで」(13.2%)となっている。

4. リカレント教育について

(1) リカレント教育を受けたいかの有無(問16)

リカレント教育とは、義務教育や高校・専門学校・大学などで教育を修め、現在社会人として働きながら、または、過去に働いた経験のある人が、現在の仕事のキャリアアップや再就職のために大学や短期大学で学び直すことをいう。

本年度調査から、リカレント教育への意欲を示す県民を把握するため、新たに作成した設問である。

調査の結果、「今後、学習したいと思う」(38.5%)と最も高く、次いで、「今後も学習したいとは思わない」(37.5%)、「学習したことがある(現在学んでいる)」(14.8%)、「社会人となった経験がない」(5.3%)、「その他」(3.9%)となっている。

(2) リカレント教育を受けたい理由(問17)

リカレント教育を受けたい理由として、「教養を深めるため」(23.5%)、次いで「資格を取得したいため」(16.1%)、「職業において必要性を感じていたため」(15.0%)、「就職や転職のために必要性を感じていたため」(11.6%)となっている。

5. おきなわ県民カレッジ

(1) おきなわ県民カレッジについて(問18)

おきなわ県民カレッジの認知度については、「いいえ」と答えた人が(73.8%)と多く、「はい」と答えた人(8.3%)、「聞いたことがある」は(17.8%)となっている。

第2章 調査結果の分析

2-1 学習活動の実態

1. 学習分野の実態（問5～問6）

あなたの生涯学習活用について

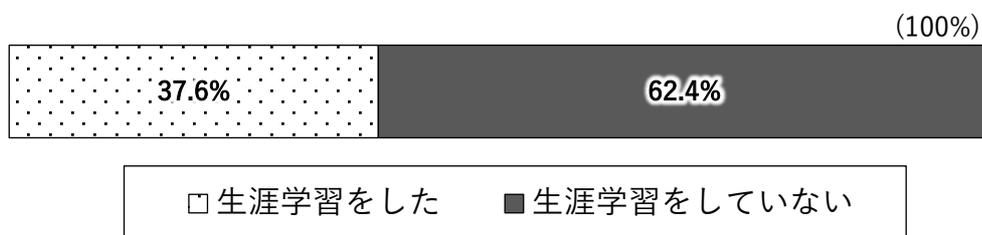
問5 あなたは、この1年間に「生涯学習」をしましたか？

問5 回答欄

「生涯学習」をした→問6、7、8、9へ

「生涯学習」をしていない→問10へ

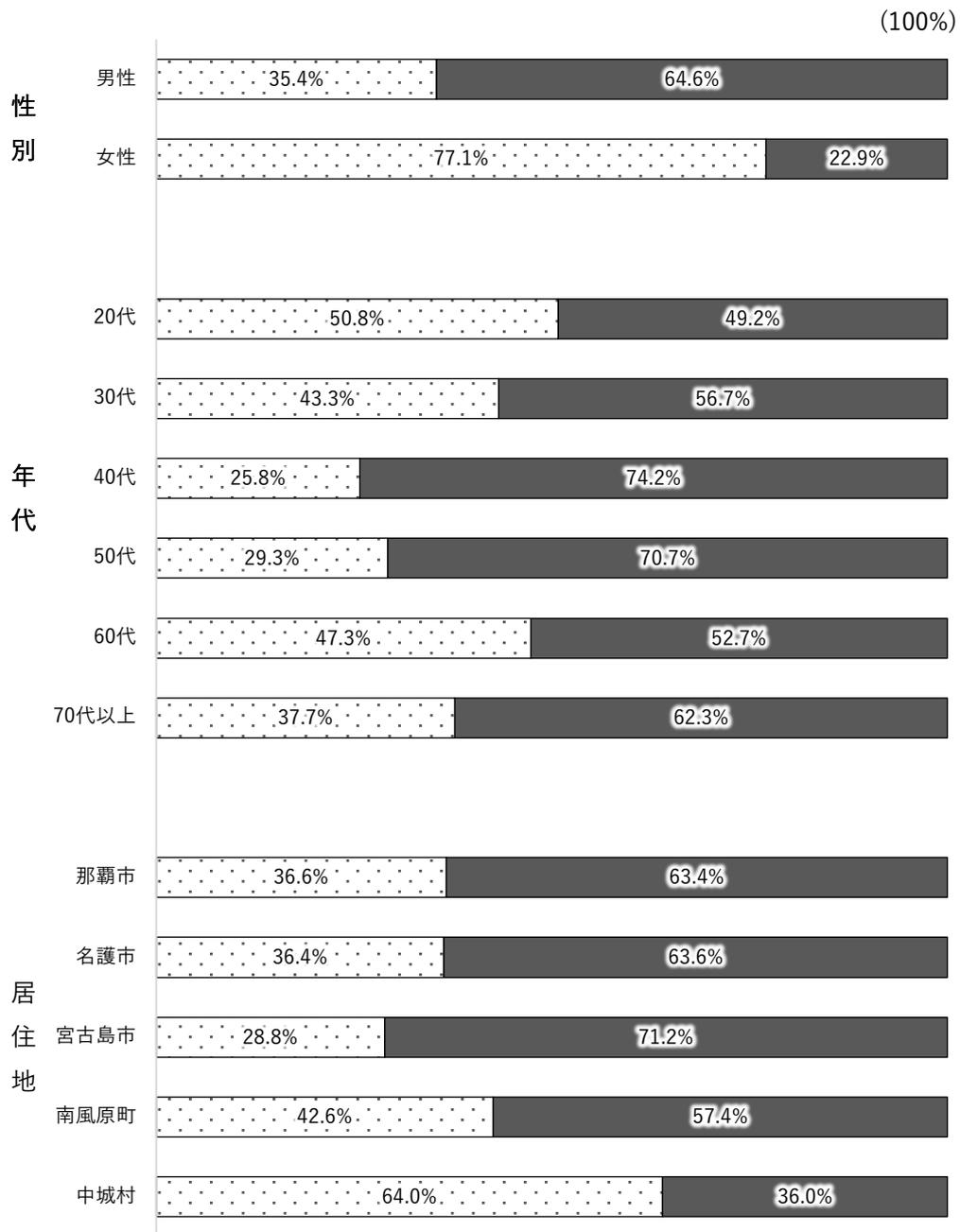
1年間継続して、「生涯学習をした」と答えた方は、全体の37.6%を占め、次いで「生涯学習をしていない」と答えた方は全体の62.4%を占め、結果、「生涯学習をしていない」割合が、「生涯学習をした」数を上回っている。



男女別にみると、男性で「生涯学習をした」(35.4%)、「生涯学習をしていない」(64.6%)で、女性は「生涯学習をした」(77.1%)、「生涯学習をしていない」(22.9%)となっており、女性の方が、「生涯学習をした」と回答した傾向が男性に比べると高いことが示されている。

年齢別にみると、20代では、「生涯学習をした」(50.8%)と回答しているが、30代(56.7%)、40代(74.2%)、50代(70.7%)、60代(52.7%)、70代以上(62.3%)では、「生涯学習をしていない」と回答しており、20代以外の世代では、生涯学習を行っていない傾向が高くみられる。

地域別にみると、那覇市(63.4%)、名護市(63.6%)、宮古島市(71.2%)、南風原町(57.4%)では、「生涯学習をしていない」と回答しているが、中城村では、「生涯学習をした」(64.0%)と回答しており、中城村だけが、「生涯学習をした」と回答した割合が、「生涯学習をしていない」(36.0%)よりも大きく上回っている。



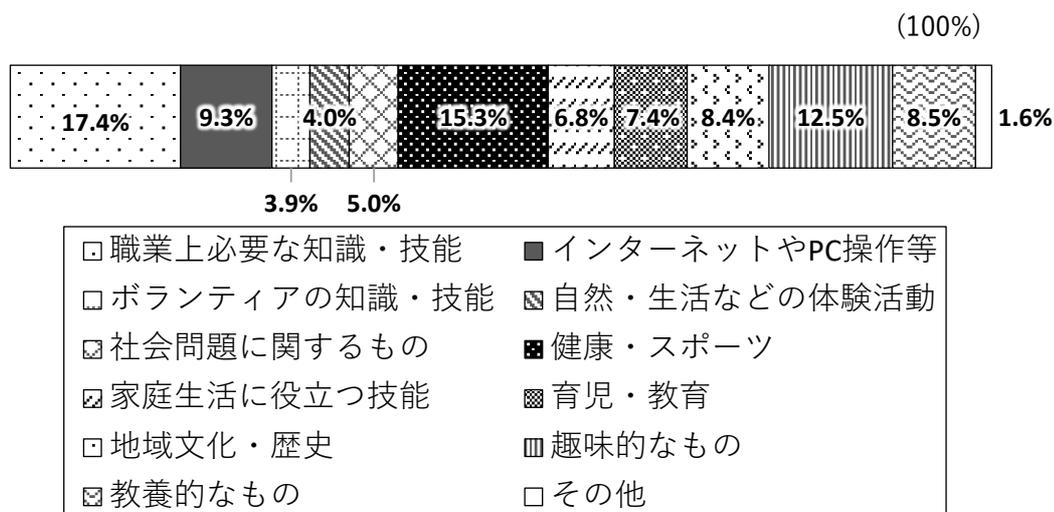
□生涯学習をした ■生涯学習をしていない

問6 あなたが行った生涯学習や活動をいくつでも選んでください。

問6 回答欄

- 職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）
- インターネットやプログラミング、パソコン・スマートフォン操作に関すること
- ボランティア活動のために必要な知識・技能
- 自然体験や生活体験などの体験活動
- 社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）
- 健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）
- 家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）
- 育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）
- 地域文化・歴史（空手、琉球舞踊、三線、伝統料理、伝統工芸、琉球・沖縄史など）
- 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）
- 教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）
- その他（ ）

1年間継続して学習活動を行なった分野としては、「職業上必要な知識・技能（仕事の関係のある知識の習得や資格の取得など）」（17.4%）の割合が最も高く、次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」（15.3%）、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動）」（12.5%）となっている。

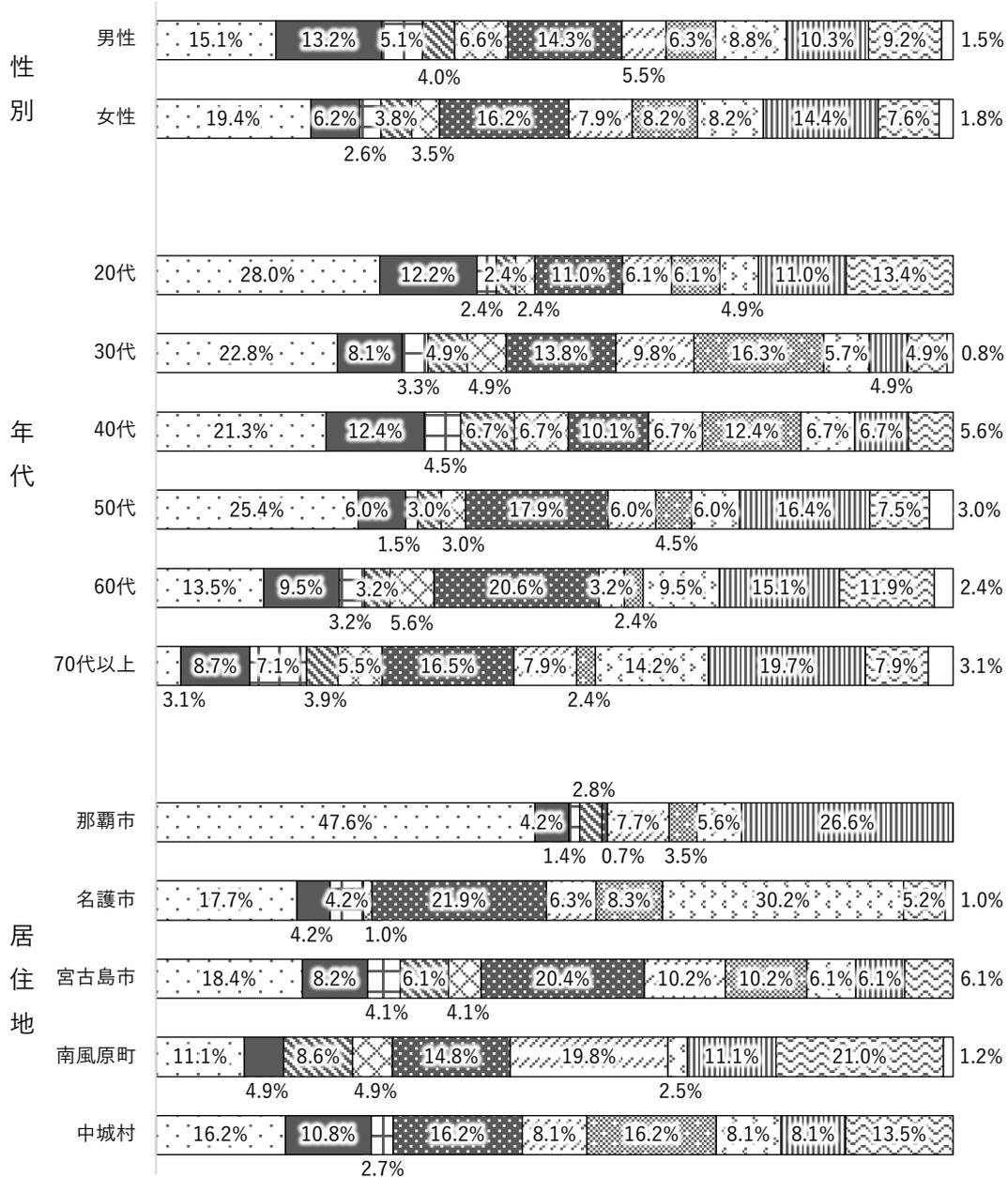


男女別にみると、男性で「職業上必要な知識・技能（仕事の関係のある知識の習得や資格の取得など）」（15.1%）、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」（14.3%）、「インターネットやプログラミング、パソコン・スマートフォン操作に関すること」（13.2%）が上位3つで、女性は「職業上必要な知識・技能（仕事の関係のある知識の習得や資格の取得など）」（19.4%）、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」（16.2%）、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動）」（14.4%）となっている。

年齢別にみると、20代（28.0%）、30代（22.8%）、40代（21.3%）、50代（25.4%）は、「職業上必要な知識・技能（仕事の関係のある知識の習得や資格の取得など）」と最も高く回答しており、60代（20.6%）、70代（16.5%）は、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」と最も高く回答していることから、世代別によって、行った生涯学習の内容が、異なることが示されている。

地域別にみると、那覇市では、「職業上必要な知識・技能（仕事の関係のある知識の習得や資格の取得など）」（47.6%）が最も高く回答されており、また名護市（21.9%）、宮古島市（20.4%）では、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が最も高い回答結果となっている。南風原町では、「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」（19.8%）が最も高く回答されており、また、中城村では、「育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）」（16.2%）、「職業上必要な知識・技術（仕事の関係のある知識の習得や資格の習得など）」（16.2%）も同様に最も高く回答されている。

(100%)



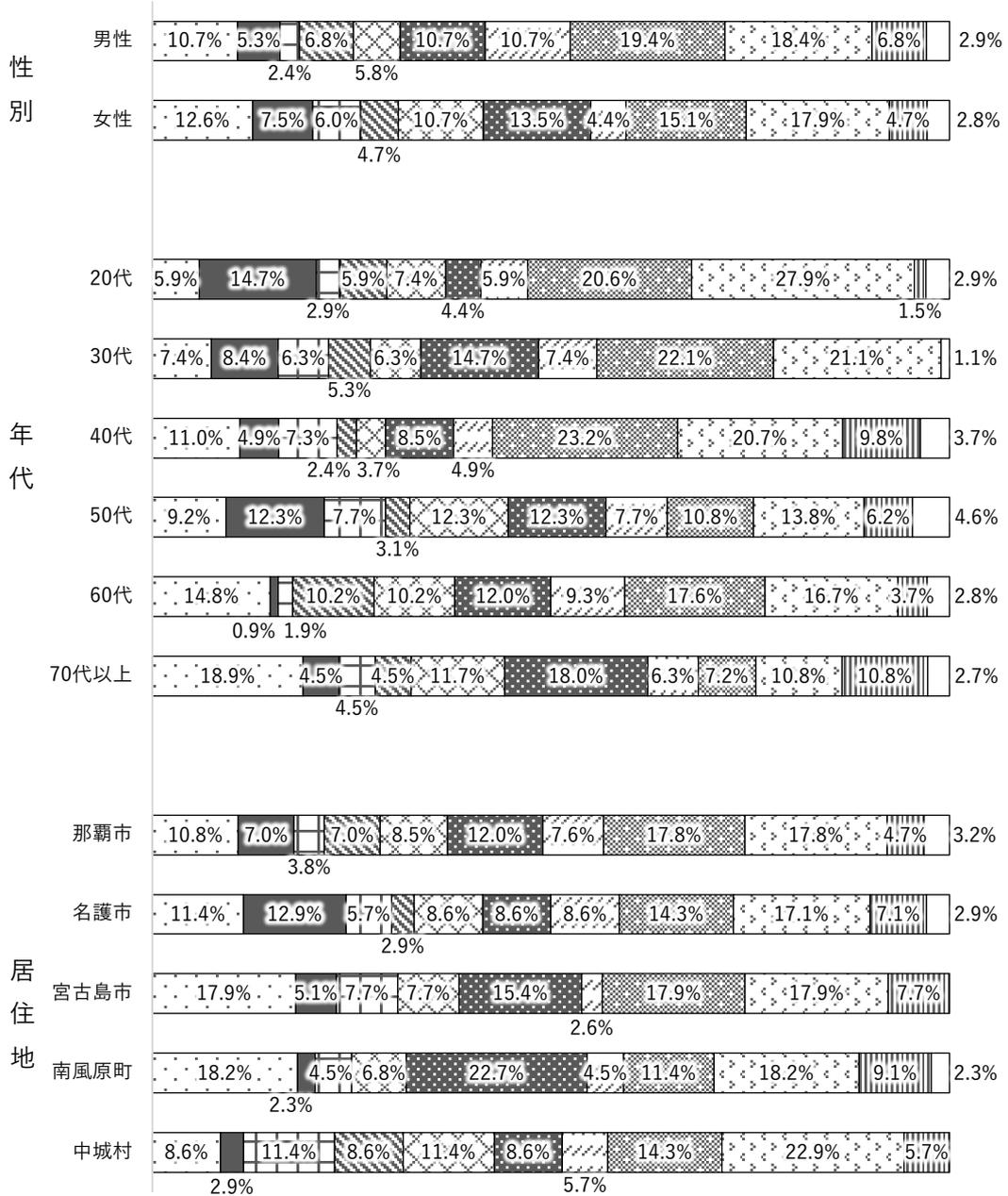
- | | |
|----------------|-----------------|
| □ 職業上必要な知識・技能 | ■ インターネットやPC操作等 |
| □ ボランティアの知識・技能 | ■ 自然・生活などの体験活動 |
| □ 社会問題に関するもの | ■ 健康・スポーツ |
| □ 家庭生活に役立つ技能 | ■ 育児・教育 |
| □ 地域文化・歴史 | ■ 趣味的なもの |
| □ 教養的なもの | □ その他 |

男女別にみると、男性で「インターネット、オンライン講座、情報端末」(19.4%)、「自宅での学習(書籍など)」(18.4%)、「公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座等」、「テレビやラジオ」「同好会、サークル、自主的に行っている集まり等での活動」(10.7%)が上位に入っており、女性は「自宅での学習(書籍など)」(17.9%)、「インターネット、オンライン講座、情報端末」(15.1%)、「同好会、サークル、自主的に行っている集まり等での活動」(13.5%)となっている。

年齢別にみると、20代では、「自宅での学習(書籍など)」(27.9%)、30代では、「インターネット、オンライン講座、情報端末」(22.1%)、同じく、40代(23.2%)、60代(17.6%)でも、「インターネット、オンライン講座、情報端末」が最も高く回答されている。また、50代では、20代同様「自宅での学習(書籍など)」(13.8%)と最も高く回答されており、70代以上では「公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座等」(18.9%)が最も高い回答になっていることから、年代別に比較しても、インターネット、オンライン講座を活用した、自宅から行える生涯学習に参加している年代が多い傾向にあることが示されている。

地域別にみると、那覇市では、「自宅での学習(書籍など)」と「インターネット、オンライン講座、情報端末」(17.8%)と最も高い回答結果になっており、同じく、名護市でも、「自宅での学習(書籍など)」(17.1%)が最も高く回答されている。また宮古島市では、「公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座等」、「インターネット、オンライン講座、情報端末」、「自宅での学習(書籍など)」(17.9%)と最も高く回答されている。南風原町では、「同好会、サークル、自主的に行っている集まり等での活動」(22.7%)が最も高く回答されており、また、中城村では、那覇市と名護市同様、「自宅での学習(書籍など)」(22.9%)と最も高く回答されており、地域別においても、自宅から行える生涯学習に参加している傾向が高いこと、また、公民館や同好会など、地域内で他人との交流を通じて生涯学習活動を行っている傾向も同様に高いことが示された。

(100%)



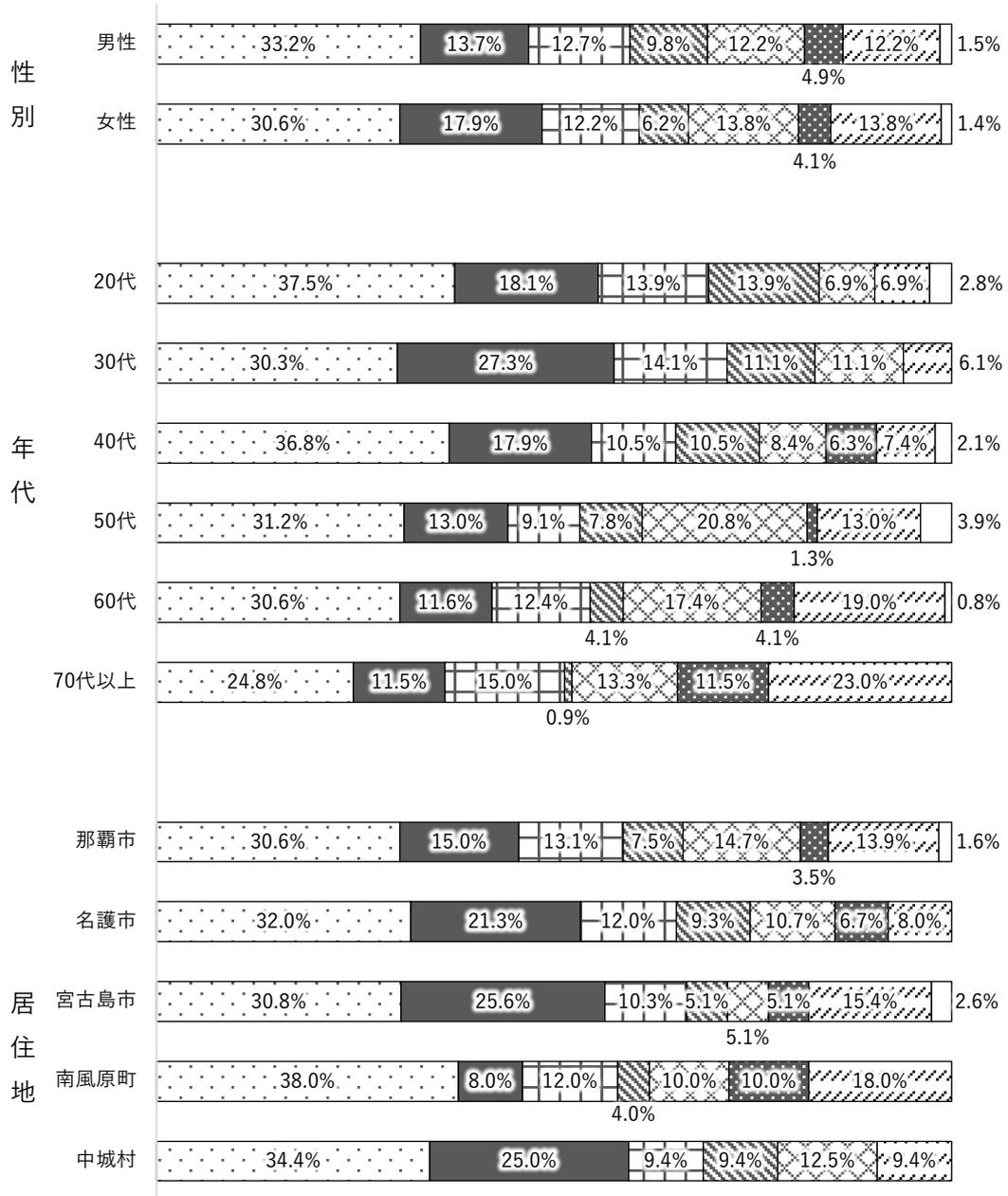
- 公民館・生涯学習センターの講座等
- 学校の公開講座等
- 病院・福祉施設の講座等
- ▨ 図書館・博物館・美術館
- ▨ カルチャーセンター・スポーツクラブ
- ▨ 同好会・サークル等
- ▨ テレビ・ラジオで
- ▨ インターネット、オンライン講座
- ▨ 自宅での学習
- ▨ ボランティア等地域活動
- その他

男女別にみると、男性で「必要な知識・技術が高められた」(33.2%)、「生活をよくするために役立った」(13.7%)、「学習の楽しみがわかった」(12.7%)が上位3つで、女性は「必要な知識・技術が高められた」(30.6%)、「生活をよくするために役立った」(17.9%)、「新しい友達を得て人間関係が広がった」(13.8%)となっている。

年齢別にみると、20代(37.5%)、30代(30.3%)、40代(36.8%)、50代(31.2%)、60代(30.6%)、70代以上(24.8%)と、全世代で、「必要な知識・技術が高められた」が最も高い回答になっていることから、年代別においても、県民の多くが過去に行った生涯学習や活動を通して、必要な知識と技術が高められたことで高い満足度を示している。

地域別にみると、年代別同様、那覇市(30.6%)、名護市(32.0%)、宮古島市(30.8%)、南風原町(38.0%)、中城村(34.4%)と、「必要な知識・技術が高められた」が最も高く回答されており、地域別においても、県民の多くが過去に行った生涯学習や活動を通して、必要な知識と技術が高められたことで高い満足度を示している。

(100%)



- | | |
|------------------|------------------|
| □ 必要な知識・技術が高められた | ■ 生活をよくするために役立った |
| □ 学習の楽しみがわかった | ▨ 必要な資格を得られた |
| ▨ 働く他に生きがいをもてた | ■ 地域の活動への参加 |
| □ 人間関係が広がった | □ その他 |

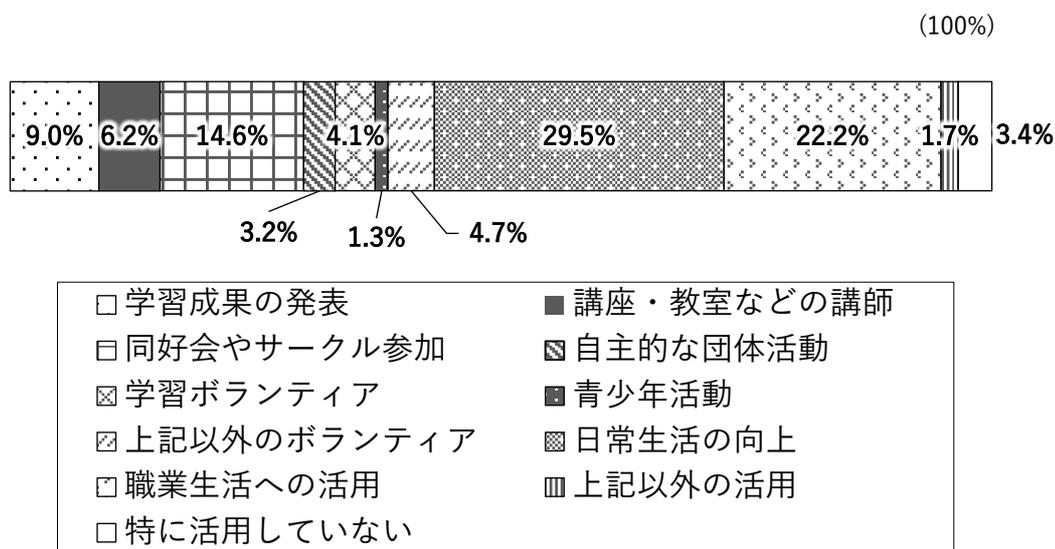
(2) 役立った内容 (問9)

問9 あなたの学習活動が役に立ったことを3つ選んでください

問9 回答欄

- 学習成果の発表（発表会・展示会・発表誌等の発行）
- 講座・教室・講演などの講師
- 同好会やサークル・グループづくりまたは参加
- 自主的な団体活動（国際交流・環境問題・消費者問題等の社会的課題）
- 学習ボランティア（講師・学習アシスタント・環境整備・部活動の指導者等）
- 青少年活動
- 上記以外のボランティア（福祉分野等）
- 日常生活の向上（家庭生活の改善・健康管理等の向上）
- 職業生活への活用（転職・資格取得・仕事の合理化等）
- 上記以外の活用（ ）
- 特に活用していない：理由（ ）

「日常生活の向上（家庭生活の改善・健康管理等の向上）」(29.5%)、「職業生活への活用（転職・資格取得・仕事の合理化等）」(22.2%)の2項目が上位を占め、次いで「同好会やサークル・グループづくりまたは参加」(14.6%)、「学習成果の発表（発表会・展示会・発表誌等の発行）」(9.0%)が続いている。

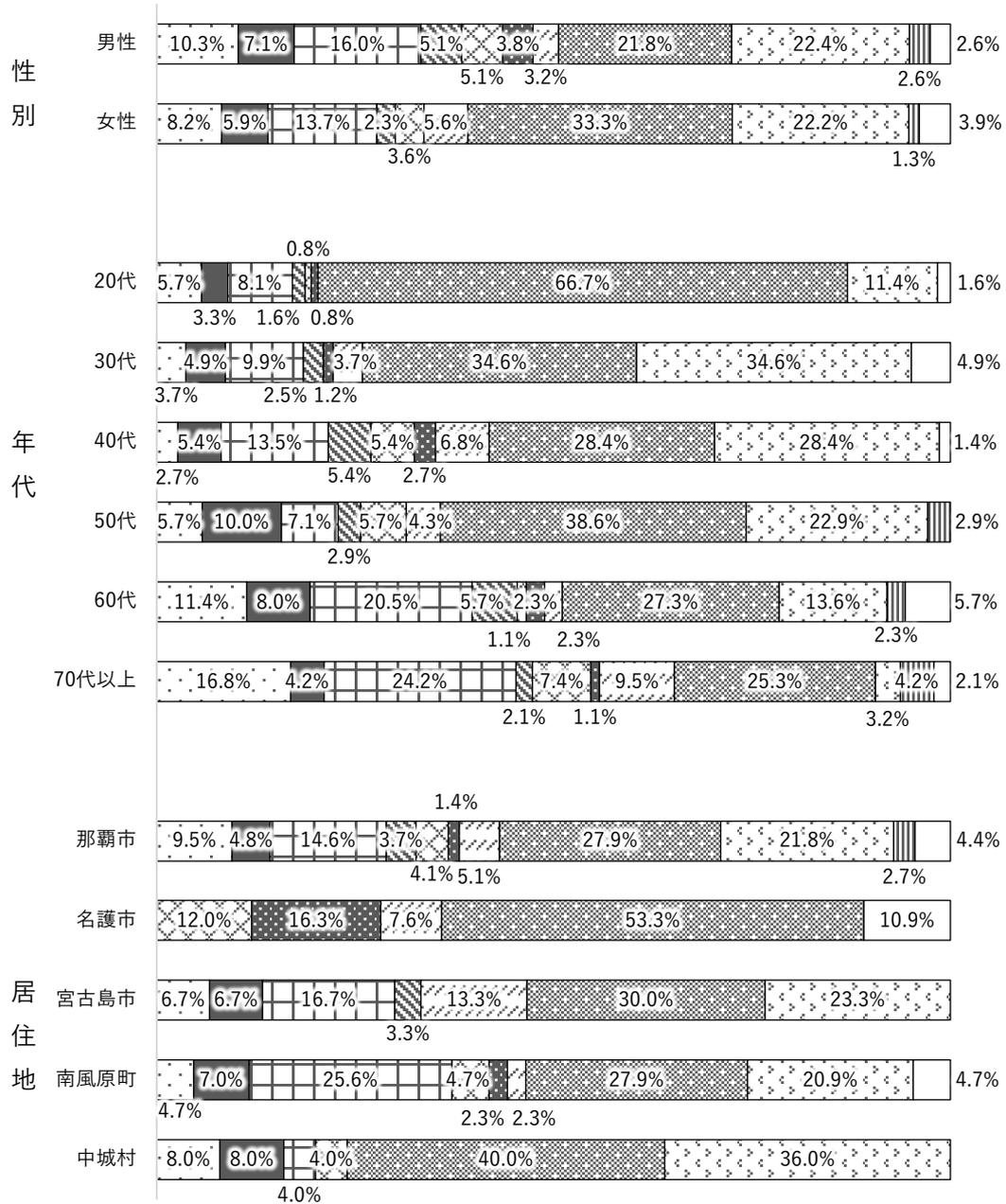


男女別にみると、男性で「職業に必要な知識や技術を高めるため」(22.4%)、「日常生活の向上(家庭生活の改善・健康管理等の向上)」(21.8%)、「同好会やサークル・グループづくりまた参加」(16.0%)が上位3つで、女性では、「日常生活の向上(家庭生活の改善・健康管理等の向上)」(33.3%)、「職業に必要な知識や技術を高めるため」(22.2%)、「同好会やサークル・グループづくりまたは参加」(13.7%)となっている。

年齢別にみると、20代(66.7%)、30代(34.6%)、40代(28.4%)、50代(38.6%)、60代(27.3%)、70代以上(25.3%)と、全世代で、「日常生活の向上(家庭生活の改善・健康管理等の向上)」が最も高い回答になっている。また、「日常生活の向上(家庭生活の改善・健康管理等の向上)」同様に、30代(34.6%)、40代(28.4%)では、「職業に必要な知識や技術を高めるため」が最も高い回答になっていることから、年代別においても、県民の多くが過去に行った生涯学習や活動を通して、日常生活の向上につながり、また職業に必要な知識や技術を高めたことで、高い満足度を示している。

地域別にみると、年代別同様、那覇市(27.9%)、名護市(53.3%)、宮古島市(30.0%)、南風原町(27.9%)、中城村(40.0%)と、「日常生活の向上(家庭生活の改善・健康管理等の向上)」が最も高く回答されており、地域別においても、県民の多くが行った生涯学習や活動を通して、日常生活の向上につながったことで、高い満足度を示している。

(100%)



- 学習成果の発表
- ▣ 同好会やサークル参加
- ▤ 学習ボランティア
- ▥ 上記以外のボランティア
- ▦ 職業生活への活用
- 特に活用していない
- 講座・教室などの講師
- ▨ 自主的な団体活動
- ▩ 青少年活動
- 日常生活の向上
- 上記以外の活用

4. 学習や活動が出来ない理由 (問 10)

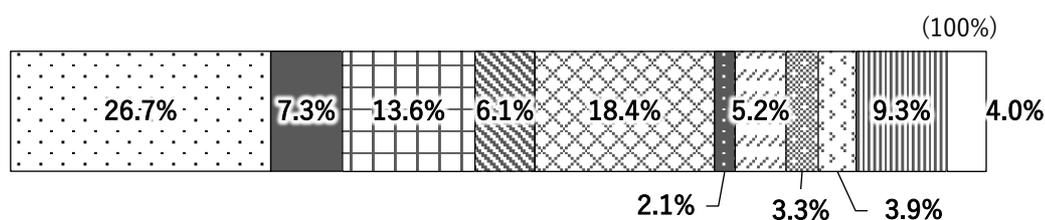
問 5 で「生涯学習をしていない」と回答された方へおたずねします。

問 10 あなたが学習や活動をできない理由をいくつでも選んでください。

問 10 回答欄

- 仕事・家事・育児などのため、時間がとれない
- 希望する内容にあった学習や活動の機会が少ない
- 学習費用を負担できない
- 家庭や職場の人の理解や協力が得られない
- どんな学習や活動があるかわからない
- 適切な講師や指導者がいない
- 身近に利用できる施設が少ない
- 身体の具合が悪い
- 身近に仲間がいない
- 学習や活動をする必要を感じない
- その他 ()

学習や活動に参加できない理由として、「仕事・家事・育児などのため、時間が取れない」(26.7%)と最も多く、以下「どんな学習や活動があるかわからない」(18.4%)、「学習費用を負担できない」(13.6%)、「学習や活動をする必要を感じない」(9.3%)、となっている。



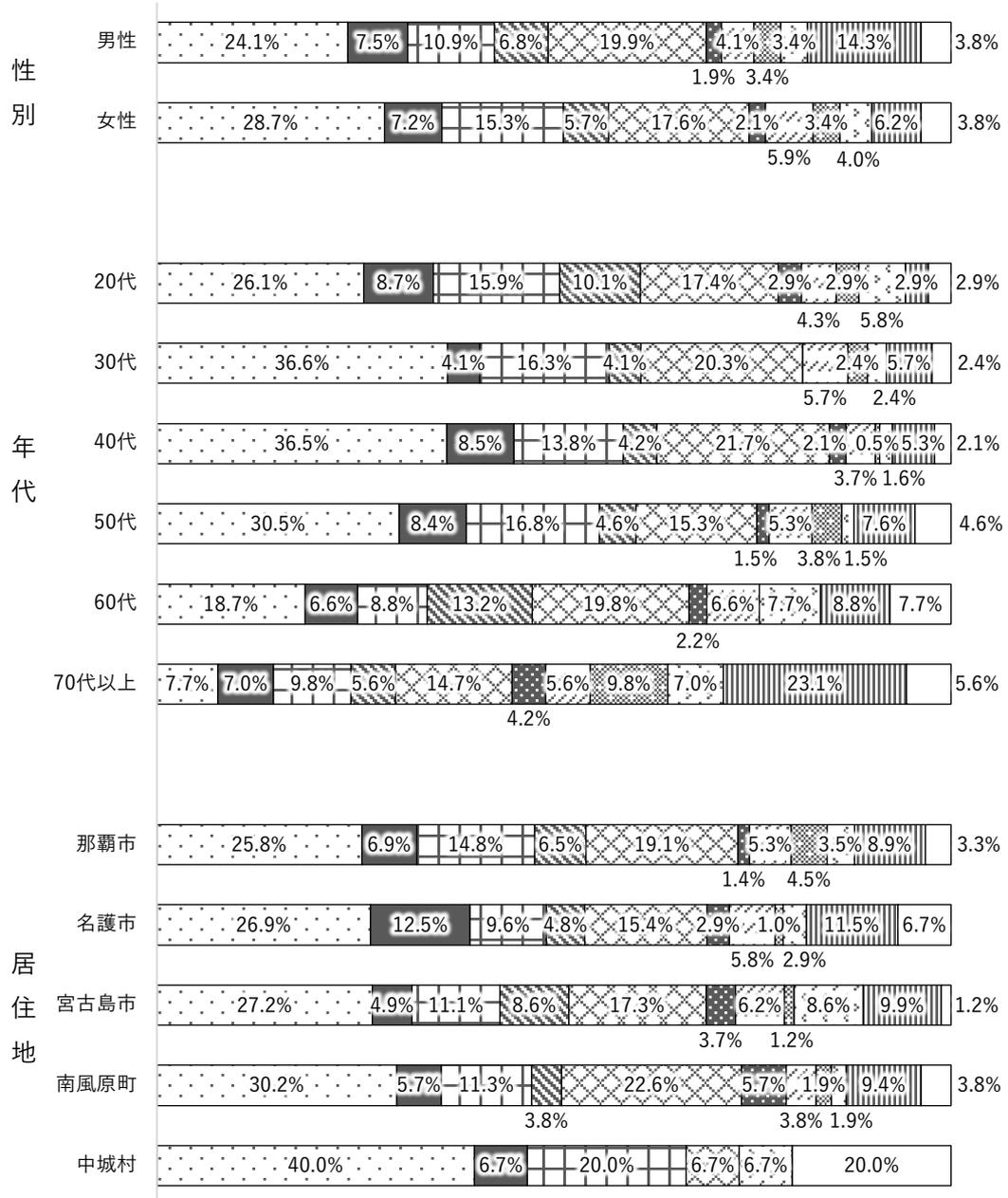
<input type="checkbox"/> 仕事・家事・育児などのため	<input type="checkbox"/> 希望する内容が少ない
<input type="checkbox"/> 学習費用を負担できない	<input type="checkbox"/> 家庭や職場の協力が得られない
<input type="checkbox"/> どんな学習や活動があるかわからない	<input type="checkbox"/> 適切な講師や指導者がいない
<input type="checkbox"/> 身近に利用できる施設が少ない	<input type="checkbox"/> 身体の具合が悪い
<input type="checkbox"/> 身近に仲間がいない	<input type="checkbox"/> 必要を感じない
<input type="checkbox"/> その他	

男女別にみると、男性で「仕事・家事・育児などのため、時間が取れない」(24.1%)と最も高く、次いで、「どんな学習や活動があるのかわからない」(19.9%)、「学習や活動をする必要を感じない」(14.3%)で、女性も「仕事・家事・育児などのため、時間が取れない」(28.7%)と最も高く、次いで、「どんな学習や活動があるのかわからない」(17.6%)、「学習費用を負担できない」(15.3%)となっていることから、若干だが、女性の方が、男性より、仕事だけでなく家事や育児のため、時間が取れず、生涯学習や活動を行うことが出来ないことがうかがえる。

年齢別にみると、20代(26.1%)、30代(36.6%)、40代(36.5%)、50代(30.5%)では、「仕事・家事・育児などのため、時間が取れない」が最も高く、60代(19.8%)、70代以上(14.7%)では、「どのような学習や活動があるかわからない」が最も高いことから、60代や70代以上に対する生涯学習や活動に関する広報活動が必要と思われる。

地域別にみると、那覇市(25.8%)、名護市(26.9%)、宮古島市(27.2%)、南風原町(30.2%)、中城村(40.0%)では、「仕事・家事・育児などのため、時間が取れない」と最も高く、次いで、那覇市(19.1%)、名護市(15.4%)、宮古島市(17.3%)、南風原町(22.6%)が、「どんな学習や活動があるかわからない」と、2番目に高い結果となっている。しかし、中城村(20.0%)は、「学習費用を負担できない」が、2番目に高い結果となっており、那覇市(14.8%)、宮古島市(11.1%)、南風原町(11.3%)では、3番目に高いことから、市町村別に関わらず、学習費用を負担できないことは、生涯学習に参加できない阻害要因となっている。

(100%)



- 仕事・家事・育児などのため
- ▣ 学習費用を負担できない
- ▤ どんな学習や活動があるかわからない
- ▥ 身近に利用できる施設が少ない
- ▧ 身近に仲間がない
- その他
- 希望する内容が少ない
- ▨ 家庭や職場の協力が得られない
- ▩ 適切な講師や指導者がいない
- 身体具合が悪い
- 必要を感じない

2-2 生涯学習の今後の方向

1. 今後の生涯学習について（問 11～問 13）

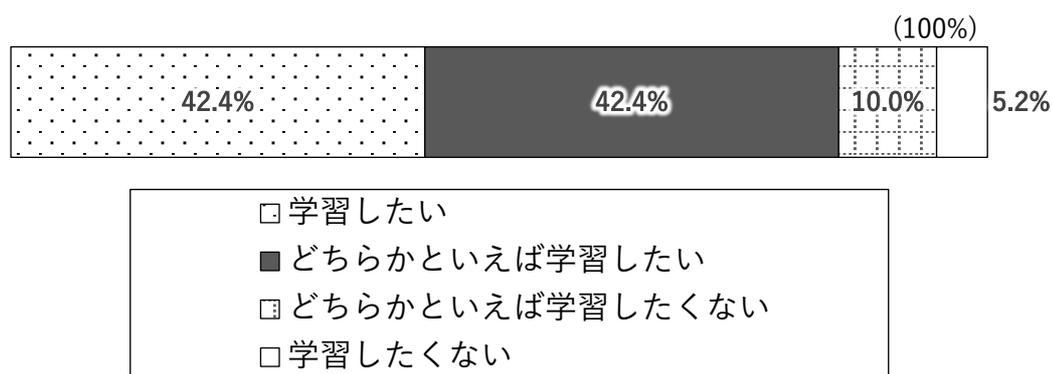
問 11 今後、生涯学習をしたいと思いますか？

問 11 回答欄

- 学習したい
- どちらかといえば学習したい
- どちらかといえば学習したくない
- 学習したくない

本年度調査で、今後の生涯学習への参加について、質問したところ、「学習をしたい」（42.4%）、同じく「どちらかといえば学習したい」（42.4%）と、約 8 割の回答者が、今後の生涯学習への参加意欲を示している。

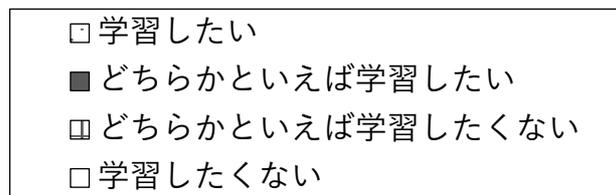
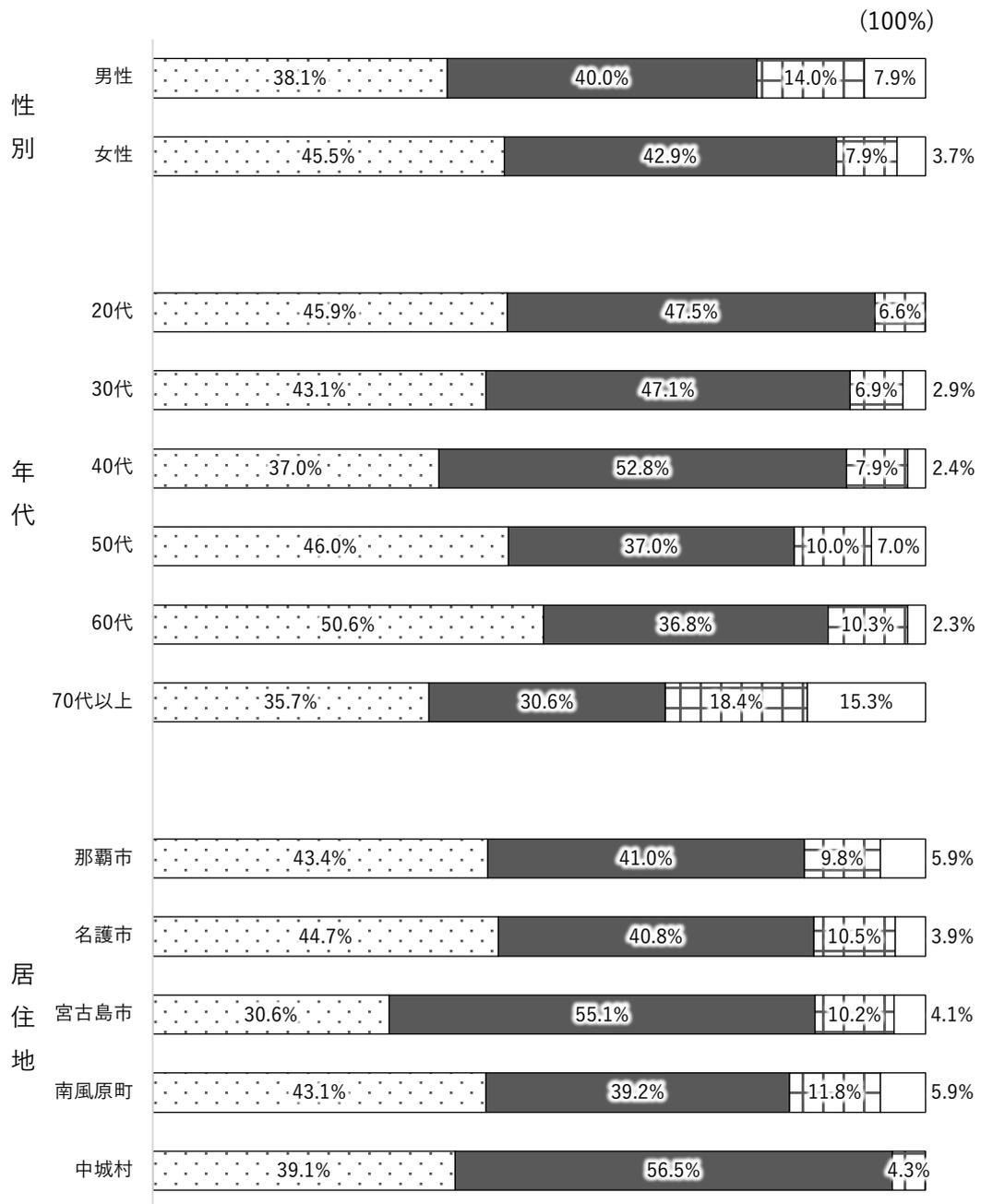
また、「どちらかといえば学習したくない」（10.0%）、次いで「学習したくない」（5.2%）と全体の 2 割弱の回答者が今後の生涯学習への参加に対し、消極的であることが示されている。



男女別にみると、男性は「学習したい」（38.1%）、「どちらかといえば学習したい」（40.0%）、「どちらかといえば学習したくない」（14.0%）で、女性は「学習したい」（45.5%）、「どちらかといえば学習したい」（42.9%）、「どちらかといえば学習したくない」（7.9%）となっている。調査結果から、男女ともに、今後、生涯学習を行いたい傾向が高いことが示されている。

年齢別にみると、20代（47.5%）、30代（47.1%）、40代（52.8%）が、「どちらかといえば学習したい」と最も多く回答しているが、50代（46.0%）、60代（50.6%）、70代以上（35.7%）は、「学習したい」が、最も高いことから、年代別に関わらず、全体的に今後、生涯学習を行いたい傾向が高いことが示されている。

地域別にみると、那覇市（43.4%）、名護市（44.7%）、南風原町（43.1%）は「学習したい」と回答された方が最も高く、また宮古島市（55.1%）、中城村（56.5%）は「どちらかといえば学習したい」と最も高い回答結果となっていることから、地域別に関わらず、今後、生涯学習を行いたい傾向が高いことが示されている。

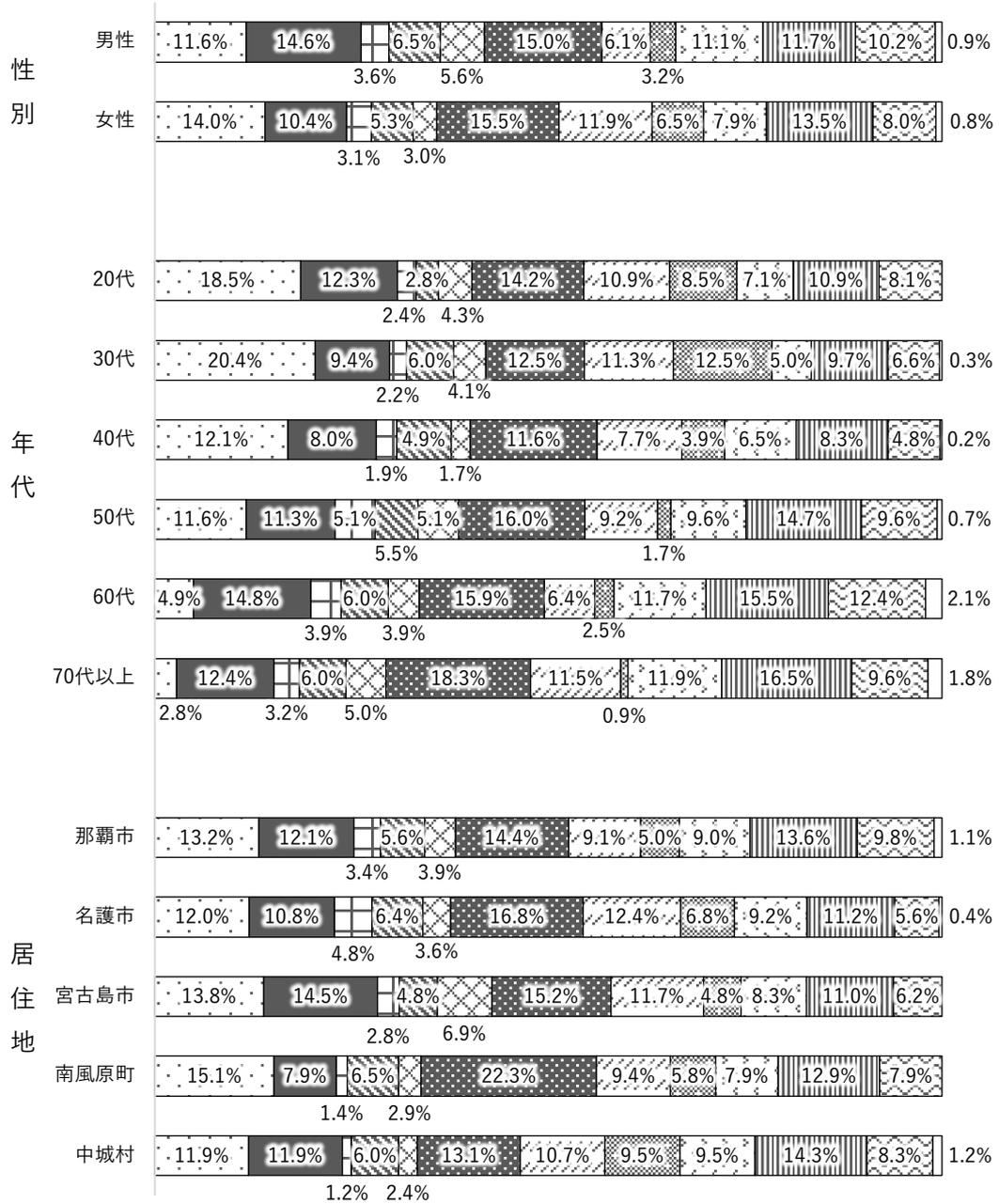


男女別にみると、男性は「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」（15.0%）と最も高く、次いで「インターネットやプログラミング、パソコン・スマートフォン操作に関すること」（14.6%）、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」（11.7%）となっている。女性は「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」（15.5%）と最も高く、次いで「職業上必要な知識・技術（仕事に関係ある知識の習得や資格の取得など）」（14.0%）と「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」が（13.5%）となっている。調査結果から、男女別に関わらず、健康的な分野、趣味的な分野、職業的な分野に関する生涯学習や活動が高い傾向にある。

年齢別にみると、20代（18.5%）、30代（20.4%）、40代（12.1%）では、「職業上必要な知識・技術（仕事に関係ある知識の習得や資格の取得など）」と最も多く回答しており、50代（16.0%）、60代（15.9%）、70代以上（18.3%）では、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が最も高いことから、年代別によって、今後、生涯学習を行いたい傾向が職業に関すること、また健康に関わることの2つに示されている。

地域別にみると、那覇市（14.4%）、名護市（16.8%）、宮古島市（15.2%）、南風原町（22.3%）と、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が最も高く、中城村では、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」（14.3%）が最も高く回答していることから、地域別に関わらず、健康に関する生涯学習や活動をされている傾向が高いことが示されている。

(100%)



- 職業上必要な知識・技能
- ボランティアの知識・技能
- ▨ 社会問題に関するもの
- ▨ 家庭生活に役立つ技能
- ▨ 地域文化・歴史
- ▨ 教養的なもの
- インターネットやPC操作等
- ▨ 自然・生活などの体験活動
- ▨ 健康・スポーツ
- ▨ 育児・教育
- ▨ 趣味的なもの
- その他